

太陽光発電監視システム開発

発電量・売電金額・機器の異常…

リアルタイムで確認

大分市の幸設備工業(株)（佐藤幸憲社長）は、IT企業の(株)トランスコムユニカ（同市、山本譲治社長）と共同で、太陽光発電遠隔監視システム「いっこもモニター」を開発した。リアルタイムでパソコンやスマートフォン、タブレット端末から1時間ごとの発電状況や売電金額（概算）を確認でき、時間・日・月・年ごとの集計をグラフ・表での表示も可能。発電状況の確認だけでなく、分析や機器の異常発見に活用できる。

大分市の幸設備工業

「いっこもモニター」は、パワーコンディショナーとに接続すれば、いつでもどこでも計測した発電量データを、インターネットのサーバー上に保存し、いわゆるクラウドサービスとして提供する。そのため、ネット

「いっこもモニター」の管理画面



また、過去のデータも蓄積し、棒グラフや折れ線グラフで発電量の推移を表示できるため、機器に異常があり発電量が落ちたりした場合に自動で知らせてくれる機能もある。

システムは、電力計測器と通信機器、クラウドサーバーで構成。ドコモの携帯電話の電波が届くところならどこにでも設置可能で、設備の規模やメーカーは問わない。料金は設備の規模によって金額が変わるが、初期費用と月々の利用料が必要。

同社では、自社の太陽光発電設備に設置しているシステムを、ホームページ上で公開しており、実際の稼働状況や使用感を確認できる。全国の発電事業者や設備設置会社から問い合わせがきており、県内でも新規設置のほか、他社のものからの乗り換えなどで導入が増えている。

佐藤社長は「自社の発電設備を使って実証実験を重ね、利用者目線で使いやすいものを開発した。顧客から要望があった監視カメラのサービスも検討しており現在テスト中（こちらもホームページで公開中）。太陽光だけでなく様々な発電施設に応用できるので拡張していきたい」と話している。